

抄 録

喉頭疾患と HPV 感染

琉球大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座

真栄田 裕行

頭頸部腫瘍の発生に HPV (human papillomavirus) 感染が関与することが明らかになってきているが、多くは悪性腫瘍では中咽頭癌、良性腫瘍では鼻副鼻腔乳頭腫および喉頭乳頭腫との関連についての報告である。最近では喉頭癌と HPV 感染との関わりについての報告も散見されるようになってきた。しかし中咽頭癌と HPV 感染との関係ほど確固としたものではなく、報告されている HPV 感染率や同定率にも大きな幅がある。ただし同定された HPV のサブタイプはハイリスク型がほとんどであることは共通している。一方で喉頭乳頭腫と HPV に関する報告は多数みられ、ウイルスのサブタイプはほとんどが 6 型や 7 型のローリスク型であることもまた共通している。今回の報告では、まず頭頸部癌における一般的な HPV の感染率と疾患の罹患率について述べる。次いで特に喉頭乳頭腫および喉頭癌における HPV の同定率について考察する。HPV の主な検出方法には PCR 法、ISH (in situ hybridization) 法、免疫組織学的手法などが挙げられるが、先に述べた同定率 (検出率) はこれらの検出方法によってその結果がかなり左右されることがわかっている。さらに乳頭腫から喉頭癌へのいわゆる癌化についてはその可能性が指摘されているものの、その機序は未だ明らかにはなっていない。我々は過去に経験した喉頭癌症例の病理切片を調査し、喉頭乳頭腫から喉頭癌への移行が認められないかを病理組織学的に検証し、自験例を含めて報告した。当科で調査した喉頭腫瘍 36 例 (喉頭癌 33 例、喉頭乳頭腫 3 例) のうち、喉頭癌の 5 例 (15.2%) および乳頭腫の 3 例すべてにおいて HPV 陽性であった。HPV 陽性喉頭癌 5 例のウイルスのサブタイプはすべてがハイリスク型であり、乳頭腫 3 例のサブタイプはすべてローリスク型であった。同時に調査した中咽頭癌における HPV に比して低い同定率ではあったが、喉頭癌の発症に HPV が関与している可能性を否定するものではないと考えられた。

Key words : human-papillomavirus, laryngeal carcinoma, laryngeal papilloma, cancerization, head and neck squamous cell carcinoma